

町内166人小・中学生、うれしい卒業

3月、町内の小、中学校5校から166人がうれしい卒業を迎えました。幼児センターの園児66人もめでたく卒業。新たな門出に心を躍らせています。

19日、東川小学校(村田俊昭校長)からは67人が巣立ちを迎えました。

卒業生一人ひとりが登壇し、自分が目指す将来の夢を披露しました。

「サッカー選手になりたい」「将来は動物園で働きたい」「漫画家という夢を



追いかけて頑張りたい」「貧しい子供たちを支援する仕事をしたい。勇気を与える仕事をしたい」「料理人になってお父さんを超えるたい」「フルーツ奏者になりたい」「親孝行したい」などと多彩な夢や希望が登壇しました。

村田校長は「この1年間、日本中で絆やつながりということが大切だということがあった。そしてみんなは卒業の大切さ

を学んできた。培ってきた絆を大切に生きてほしい。広い心、優しい心をさらに大事にしてほしい」と卒業に向けてはなむけの言葉を贈りました。

町内の他の小学校卒業生は、ほかに第一小5人、第二小8人、第三小6人。全町では昨年より17人多い86人になりました。



13日、東川中学校(森雅則校長)では80人が晴れの門出を迎えました。卒業生は一人ひとり卒業証書を受け、

2年間ともに過ごした思い出いっぱい詰まった椅子を両手に抱いて、学び舎(や)に別れを告げる笑顔も晴れやか。先輩たちが校門近くで先輩たちの門出に拍手を送りました。森雅則校長は「これから自分に何が出来るか、何をなすべきかを考えなければならぬ。一人ひとり良く考えて自分の答えを出して生きてゆくことが大切。夢を希望の実現に向かつてあきらめず一歩ずつ進んでほしい」とはなむけを贈りました。

幼児センター園児ももんがの木に卒園記念の名札

幼児センター(伊藤和代園長)では3月、66人のお友達が「ももんがの森の大きな木」に一人ずつ卒園記念の名札を張って元気に「ももんがの家」を卒業しました。

同日13日、卒園式を前に、お友達が園内の木彫レリーフ「ももんがの森の

大きな木」の前に集まりました。

毎年卒業するお友達は自分の名前を木の葉っぱに刻んで記念樹に残し、小学校卒業の時に一人ひとりに思い出として渡します。廊下の壁一面に広がる森の木は、木彫の木の葉っぱに広がる森になりました。



「君の椅子巡りを」、オオドオリ大学が来町

3月10日、札幌オオドオリ大学(猪熊梨恵学長)の一行20人が東川町幼児センターを訪れました。

テーマは「君の椅子」まち巡り。プロジェクトに参加している東川、剣淵、愛別3町を訪ねる、いわば君の椅子の「聖地」巡り。



同大学は札幌市大通地区周辺を探索する企画から始まり、発足3年目。登録者数は千560人。雑誌のような感覚で探索テーマを設けて授業を設定。興味ある授業ごとにホームページから参加申し込みするというオープンスタイル。クリエイティブ業界など異業種スタッフ13人でボランティア運営しているという生涯学習、市民大学的取り組みです。

健康長寿時代の農業―菊地前上川農場長が講演

3月3日、好蔵寺(北町8)で「健康長寿時代の農と食を考えると題して菊地治己前上川農場長が講演しました。



菊地氏は、北海道を代表する水稲品種「ほしのゆめ」「ななつぼし」「ゆめびりか」などの育種、研究開発に取り組みました。退職後は自ら農業活性化研究所を設立。産業用大麻、有機農業の普及に取り組んでいます。

「ななつぼし」で『ササニシキ』よりおいしいくらいまでになり、「ゆめびりか」で『コシヒカリ』よりおいしくなった』など最近の道産米の優秀さをアピールしました。

陽光に誘われ、春の忠別ダムイベント

3月3日、忠別ダムサイト広場で忠別ダム第5回冬イベントが開かれました。

忠別ダム水源地域ビジョン「遊in 8忠別」(堀内重夫代表)が主催しました。約60人の親子が参加、タイヤチューブ滑りを楽しみ、林の中をスノーレッキングして、木の芽が膨らんでいる春の森を探索しました。

気温も上がって陽光が差す絶好の日和。今年は隣の東神楽町内からの親子連れが多く参加しました。

会場はまだ春の堅雪になっておらず、雪で遊ぶには絶好。山の斜面を一気に滑るタイヤチューブ滑りは、想像以上のスピード感に「キャー!」と歓声が上がりました。雪の林の中では、膨らみ始めた木の



芽や森の小さな動物たちの足跡も雪の中に発見。早春の息吹を満喫しました。